

北上市立  
鬼の館

だより

2024(R6).3  
第60号



2月4日(日)、福豆鬼節分会が、令和2年以来4年ぶりに通常開催されました。今年は、令和2年の来客数を超える約5400人が来場し、民俗芸能のステージや恒例のゲーム大会、福豆まき、福餅まきで盛り上がりました。中でも圧巻だったのは、300人がステージ上で一斉に東北東(今年の方角)を向き、五穀豊穰・無病息災を祈りながら恵方巻を無言で食べた瞬間でした。鬼の館と地区の人たちが一緒になり、地域の元気を発信した一日でした!

# 鬼の館令和5年度下半期をふりかえって

## 令和6年鬼節分会～五穀豊穡と地域の絆～



鬼の館、岩崎地区交流センター、そして岩崎地区青年会虹色の会・絆が実行委員会を組織して行われる福豆鬼節分会が4年ぶりに通常開催されました。鬼節分会では、節分で追いやられた全国の鬼たちを迎え入れ、厄を払って福の神に転じさせるという趣旨から、「福は内！鬼も内！」という独特の掛け声かけられます。

文化庁が昨年まとめた「これからの博物館に期待すること」の中には、「博物館が地域と連携し、地域の活力の向上に寄与する役割を期待」とあります。今回の鬼節分会は、実行委員長を次世代の地域青年会若手リーダーたちが務め、現リーダーたちがそれを支え、地域の皆さんが老若男女問わず集まり、エネルギーとベクトルをひとつにして絆を深めた節分会でした。鬼の館は、これからも、地域と連携し、地域の活力向上に向けて取り組んで参ります。

## 鬼学講座

1回目は建築装飾技術史研究所の窪寺茂所長から、「宗教建築に見られる鬼神像の姿と機能」と題して、神社仏閣などの古建築の中にある鬼神について、国内だけでなくパキスタンや中国といった海外の例を挙げながらご講演いただきました。日本の「鬼」の文化を理解する上でユーラシア大陸の歴史を知ることがいかに重要であるか学ぶことができました。

2回目は岩手大学平泉文化研究センターの杉本良客員教授から、「鬼が愛した赤い甕」と題して、主に奈良時代後半から平安時代の初めにかけて作られた赤彩球胴甕（せきさいきゅうどうかめ）についてご講演いただきました。この甕が作られた時代と分布から、蝦夷と京政権の関係をどのように解釈できるかについて理解を深めることができました。



## 鬼剣舞ちょっぴり体験会



例年実施してきた冬季鬼剣舞講座は、ここ数年間、参加する子どもより教える大人の方がはるかに多いという状況でした（昨年度参加6名）。その原因は5日間全日参加という長さで最終日に大勢の大人の前で発表会をするプレッシャーにあるのではないかと思います、その高いハードルを取り去れば参加者数が増えるだろうと考えました。そこで「予約必要なし！無料！

「20分間の体験からOK!」「子供だけでなく保護者、大人も大歓迎!」の「鬼剣舞ちょっぴり体験」を実施することにしました。初日1月21日（日）に行った結果は上々で、1日の体験だけで参加者総勢55人を記録しました。



今回は、「中学生のころやっていたのでちょっと踊りたくなった」という大人の方も数名いましたが幼児から小学生の参加が多かったため、恥ずかしそうに隅の方で踊っていました。今後は、「中学生以上の大人限定ちょっぴり体験」も視野に入れ顧客ニーズに応じていきたいと考えています。

## 冬季ワークショップ

今年度も冬季工作ワークショップを開催しました。

12月23日に実施した「厄除け面・しめ縄リースづくり」では、厄除けの願いを込めたお正月飾りを作成しました。参加してくれたのは小学生7名とその保護者です。

鬼剣舞の小面を作成し、造花、水引、紙垂、お札などと一緒に飾り付けた鬼の館ならではのしめ縄を作成しました。紙垂の折り方や、装飾の取り付けなど時間のかかる作業でしたが、完成したしめ縄は、それぞれ素晴らしい作品となりました。

12月24日には、鬼の館恒例の「鬼剣舞和紙お面づくり」を実施しました。型に和紙を貼り重ねて、張り子のお面から作成し色を塗る「全行程の部」と、あらかじめ用意したお面に色を塗る「色塗りの部」に分けて実施しました。

午前中から作業に取り掛かる「全行程の部」は、小学生4名が参加してくれました。全行程は1日がかりの作業になる為、集中力と継続する力が必要です。参加児童は、最後まで取り組み完成させることができました。



## 日本刀の研師

菊池真修<sup>まさみち</sup>さん

令和5年度企画展「鍛冶神展」では、日本刀の源流とされる舞草刀を中心に、刀鍛冶に係る資料を展示しました。その最終日には特別に、花巻市在住の研師・菊池<sup>まさみち</sup>さん（37）をお招きし日本刀の研ぎの実演をしました。数ある仕事のなかでなぜ研師を選んだのでしょうか。お話を伺いました。

企画展示室で日本刀の研ぎの実演をする菊池氏。手に持っているのは、愛刀・加州清光。



Q. 研師になったのはいつですか？

A. 19歳のときに、人間国宝である永山光幹の門下の加藤万豊氏に弟子入りして4年間修行し、その後、地元の花巻に戻って独立しました。

Q. 研師になるきっかけは何ですか？

A. もともと何か職人になりたくて、日本全国をまわり自分に合うものを探していました。岐阜県関市の刀研ぎの実演を見てこの職業をしたいと思い、複数の刀に関わる職業の中で研師を選びました。

Q. 普段はどのような依頼主から注文を受けていますか？

A. 個人、又は博物館、刀屋から依頼を受けているのが大半です。

Q. 1振の刀を研ぐまでにかかる日数はどれくらいですか？

A. 1日中作業して仕上げまで2週間程かかります。

Q. 現在、どちらでお仕事をされていますか？

A. 地元の花巻市で自宅に工房を構え、仕事をしています。

## 学芸ルームから

鬼の館は令和6年6月に開館30年を迎えます。令和5年度は「開館30周年プレ事業」として、主に2つのことを実施しました。

一つ目は、開館30周年プレ事業特別展「世界の仮面」の開催です。当館では、世界各国の「鬼」を理解・研究するための貴重な素材として、世界の仮面に関連した資料をこれまでに数百点収集してきました。地域や時代により様々な造形を持つ仮面を調べると、世界各地の信仰や文化について知ることができます。普段は収蔵庫に保管している仮面コレクションを展示することで約30年の歩みを感じて頂くとともに、周年記念事業に対する機運を高めることを目的として本展を開催しました。

二つ目は、北上市内の学童保育所に通う児童の皆様にも、鬼形の折り紙を折ってその折り紙に鬼の顔を描いてもらう「鬼の折り紙製作」です。令和5年7月から令和6年1月まで市内18カ所の学童保育所を巡回し、850名を超える皆様から製作いただきました。元気溢れる子供たちに楽しんで作っていただいたことは、巡回した職員にとって大きな励みになりました。製作した折り紙は、エントランスホールに飾って、いよいよ令和6年度を迎えます。



特別展「世界の仮面」の様子

## 退任のご挨拶

### 館長 小田島 孝

今年で役職定年となり、鬼の館を離れることとなります。当初は勉強の日々でしたが、周年事業の企画や芸能公演、展示室の解説、ワークショップなど様々な教育内容に触れ、また職員にも恵まれ充実した職場環境下で過ごすことが出来ました。今後も鬼の館サポーターズ会員として関わられたら嬉しいと考えています。

地域を始め、お力添えをいただきました皆様に厚く感謝申し上げますご挨拶といたします。

### 学芸員 老林 優希

配属されてから4年間、鬼剣舞を通してたくさん経験ができました。公演の司会や展示の解説、ときには舞台上で踊ったこともいい思い出です。

施設の維持管理や展示については無知な私でしたが、周りの方の支えがあって一つ一つこなすことができました。

各鬼剣舞団体の皆さまをはじめ、市内神楽団体の皆さま、施設維持に係る業者の皆さまには大変お世話になりました。支えて下さった皆さまに感謝しております。

## 館のいま

令和という時代、コロナ禍に始まりロシアのウクライナ進行や長引く宗教紛争、能登半島地震とまさに鬼多き時代です。一方、アニメ界で社会現象化した鬼滅の刃、呪術廻戦、ポケモンの碧の仮面「きたかみの里」は、鬼の館にも纏わる多くのキーワードが取り上げられています。コロナ禍ゆえの苦渋も味わいました。

今年開館30周年の節目を迎える当館ですが、6月を周年事業月間として多くの事業を用意し準備を進めています。これを前に試作した鬼剣舞面の3Dデータは、工業の先進技術と伝統芸能を大切にす北上市ならではの取組で、全国の博物館や寺院などに保管してある伝統文化の記録のほとんどを火災により焼失している歴史に鑑み、国内外でもデータによる記録・収蔵が不可欠であると考えたものです。更にはこれを面づくり技術の継承に役立てる事も目的としています。また、記念事業の中では、市内利根山光人美術館との連携による子供たちの描く鬼モニュメントのリニューアルや学童保育所へのアウトリーチ作品、地域を代表する大乘神楽「大乘の会」をご覧いただくことができます。

いつの世も不安定な世界は廻るものですが、鬼剣舞にみる平和を願う謙虚な心は、地域の大切な文化であり、今後幾千年も舞い続けられてほしいものです。

6月は鬼の館が面白いですよ！

【3D作成動画】<https://youtu.be/e9rj1noY-sA>

## 令和6年度上半期事業のお知らせ

### □ 企画展 特別展

- 4月6日(土)～6月2日(日)  
開館30周年特別ギャラリー展「岩手の民俗  
芸能を題材とした展示会」
- 8月3日(土)～10月20日(日)  
開館30周年特別企画展「酒呑童子展」

### □ イベント

- 5月5日(日・祝)こどもの日わくわくイベント
- 6月1日(土)開館30周年記念式典
- 6月16日(日)開館30周年記念 大乘神楽大会
- 6月23日(日)開館30周年記念シンポジウム
- 9月7日(土)逢魔が時ナイトミュージアム

### □ 体験会・講座

- 7～8月 夏季ワークショップ(※要申込)
- 7～9月 鬼っ子わんぱく講座  
「鬼剣舞パっこ体験会」

### □ 芸能公演

- 4月28日(日) 北藤根鬼剣舞
- 5月3日(金・祝) 鬼柳鬼剣舞め組  
黒沢尻鬼剣舞
- 6月29日(土)  
30日(日) 開館30周年  
特別芸能公演
- 7月14日(日) 黒岩鬼剣舞
- 7月28日(日) □内鬼剣舞
- 8月3日(土) みちのく芸能  
まつり鬼の館公園
- 8月13日(火) 岩崎鬼剣舞
- 8月25日(日) 相去鬼剣舞
- 9月8日(日) 二子鬼剣舞
- 9月22日(日) 御免町鬼剣舞

※事業は急な中止や内容を変更する場合がございます。

# 下半期事業報告

## ●企画展・特別展

企画展「鍛冶神展」 9,606 人  
 8月5日(土)～10月22日(日)  
 特別展「世界の仮面」 8,107 人  
 11月18日(土)～2月12日(月・祝)

## ●芸能公演

10月1日 飯豊鬼剣舞少年団 観客 中止  
 谷地鬼剣舞 観客 155 人  
 10月22日 鬼柳鬼剣舞 観客 225 人  
 11月3日 二子鬼剣舞 観客 218 人  
 11月5日 滑田鬼剣舞 観客 222 人

## ●鬼ッズ・プレイミュージアム

10月1日～3月15日  
 和紙お面づくり 参加者 104 人  
 鬼剣舞衣装着衣体験 参加者 10 人  
 冬休みワークショップ  
 12月23日 厄除けしめ縄リース作り 参加者 7 人  
 12月24日 鬼剣舞和紙お面づくり 参加者 4 人

## ●鬼剣舞ちよっぴり体験

1月21日(日) 参加者 55人  
 2月18日(日) 参加者 69人  
 3月10日(日) 参加者 42人

## ●福豆鬼節分会

2月4日(日) 参加者5,384人

## ●鬼学講座

第1回 2月24日(土)  
 宗教建築に見られる鬼神像の姿と機能 参加者 16人  
 講師：窪寺 茂 氏 (建築装飾技術史研究所所長)  
 第2回 3月9日(土)  
 鬼が愛した赤い甕 参加者 15人  
 講師：杉本 良 氏 (岩手大学平泉文化センター客員教授)



# 利用案内

**開館時間** 午前9時から午後5時  
 (入館は午後4時30分まで)  
**休館日** ・12月～3月の月曜日  
 ・12月～3月の国民の祝日の翌日  
 (土・日・月曜日の場合は火曜日)  
 ・館内整理日 (11月27日～11月30日)  
 ・年末年始 (12月28日～1月4日)  
 ・その他、臨時休館日あり  
**交通利用** ・JR北上駅より車で約20分  
 ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」秋田自動車道  
 「北上西I.C.」よりともに車で約15分

### 案内図



## 北上市立鬼の館だより

第 60 号 2024(R6). 3. 31  
 編集・発行 北上市立鬼の館  
 〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地  
 TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508

## 観覧料

区分	個人	団体 (20名以上)	共通観覧券
一般	500円	400円	700円
高校生	240円	180円	300円
小中学生	170円	120円	200円

\*未就学児は無料です。  
 \*共通観覧券は鬼の館のほか、北上市立博物館、北上市立利根山光人記念美術館でご利用いただけます。各施設1回ずつ観覧でき、有効期限は発効日より1年間です。  
 \*定住自立圏(北上市、奥州市、金ヶ崎町、西和賀町)に居住する小中学生は無料となります。  
 \*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料となります。手帳をお持ちの方1名につき、付添の方1名も無料となります。  
 \*北上市消防団員は無料となります。団員1名につき同行者5名まで無料です。受付の際に、消防団員カードをご提示ください。

### 学芸ルームのかたすみで・・・

いつも冬は、鬼の館の周りは雪で囲まれていて、屋根の下が雪山になります。  
 今年は雪が全然ないので、鬼さん達はこんな鬼の館を見たらびっくりでしょう！(愛)